

平成 30 年 3 月 25 日版

人物風土記

重を広げようとする講習院で、3月3日グラム「青葉GOGOクラブ」をスタートさせる。
○：静岡県出身で幼少期に町田市へ。当時流れてい

題字は
林文子 横浜市長

- N P O 法人「神奈川県転倒予防医学研究会」の理事長として、高齢者の元気づくりに取り組む

朝香 好平さん

莊子田在住 69歲

○：両親の死をきっかけに幸せな死の方を意識し始める。「好き勝手やっていた

指す。講演活動を趣味に述べ、「今後は転倒予防の運動を地域全体に広めていきたいですね」と微笑んだ。

〇：「転倒しないこと」
　　視に合っているんです。多忙な日々を過ごす一方で、持病の腰痛が悪化。多くの治療院巡りや、入院の経験が転機となり、整体師への道を志す。現在は区内で6店舗経営する整体師として、青葉区民の「痛み」と向き合ってきた。
　　〇：「転倒しないこと」
　　目標ではなく、健やかで、豊かに暮らすことが一番大事。春からスタートする「春からスタートするぜ」。春からでは、転倒予防や、けではなく高齢者に「わくわくできるようになつてほしい」と居場所づくりも。指す。講演活動を趣味に送る。

30代を迎えるぎりぎりまで元気で過ごす手伝いをしたいと考えて5年前にNPO法人を立ち上げ、転倒予防で青葉台に経営コンサルタントの会社を設立した。「田園都市線が好きでね。乗っている人たちが自分の価値の取り組みを始めた。

過ごす一方を尊重させた。最高位を取った。本当は幸かつた」と懐かしそうに振り返るが、当時はライバルはいた。そうした思いの中で「日本転倒予防学会」を念することに。それでも家の講演を聞いて共感。最期

転倒予防で幸せな最期を

© 2003

株式会社タウンニュース社 〒045-9132711㈹ FAX045-91120 青葉区編集室, 〒225-0014横浜市青葉区荏原西2丁目1-3 <https://www.townnews.co.jp> 発行責任者:宇山 佐藤 長編集長